

論文投稿要領

自動車技術会論文執筆要領
自動車技術会論文投稿規定※
自動車技術会著作権規則

※ 2022.12.07改正

目次

1. 論文投稿要領……………	1
2. 自動車技術会論文執筆要領……	2
原稿見本	
キーワード付与選定要領	
自動車技術会基準キーワード表 （17分類コード表）	
3. 自動車技術会投稿規定……………	15
4. 自動車技術会著作権規則……………	17

公益社団法人 **自動車技術会**

1. 論文投稿要領

1. 1 投稿要件

会員資格にかかわらずどなたでも投稿できます。また、投稿原稿が未投稿のものであればいつでも投稿できます。詳細は「3. 自動車技術会論文投稿規定」をご参照下さい。

1. 2 投稿原稿および費用

- (1) 投稿原稿は「自動車技術会論文投稿規定」及び「自動車技術会論文執筆要領」に基づいて作成された原稿とします。
- (2) 原稿ページ数は8ページ（編集委員会認めた場合は10ページ）までとします。原稿の作成方法の詳細は「2. 自動車技術会論文執筆要領」をご覧ください。
- (3) 投稿は無料です。
- (4) 掲載料は掲載区分にかかわらず、
＜本会個人会員＞ 55,000円（税込）
＜一般＞ 77,000円（税込）
春・秋季大会学術講演会への応募と同時に論文集への投稿申込ができます。この場合、学術講演会予稿集に掲載される原稿を論文投稿原稿と兼ねることができます。
詳細は、学術講演会講演規程・講演要領をご覧ください。

1. 3 投稿期限

投稿期限はありません。随時受付けています。ただし、早期掲載のためなるべく早めに投稿することをお勧めします。

1. 4 投稿方法

本会ホームページの下記アドレスの「論文集へ投稿する」より必要事項をご入力の上、投稿原稿をアップロードして下さい。

<https://www.jsae.or.jp/07publish/ronbuntoukou.php>

(お問合せ)

公益社団法人 自動車技術会 デジタルパブリッシング課 論文集担当

E-mail: ijae@jsae.or.jp

TEL:03-3262-8215・FAX:03-3261-2204

(2025年3月7日改正)

2. 自動車技術会論文執筆要領

この要領は、論文を自動車技術会論文集（以下、論文集という）に投稿する場合の執筆要領を定める。

2. 1 論文集原稿の構成と作成

- (1) 使用言語
日本語（英語はInternational Journal of Automotive Engineering）
- (2) ファイル形式
PDF（作成方法は、最後にあります。）
- (3) カラー
図表については、カラーが可能です。
※ただし、原稿は印刷物としても販売されます。また印刷物は白黒印刷です。
詳細は、2.3 原稿作成上の注意事項を必ずご参照下さい。
- (4) 構成（原稿作成の際は論文集ウェブサイト上にある「論文集原稿作成テンプレート」を必ずご使用下さい。）
 - ① ページ設定
A4サイズ／上マージン25mm，下マージン25mm，左右マージン18mm
 - ② 段組，行数など
左右2段組み，1段当たり47行，1行当たり27字。
⇒ 1段の高さ 247mm，幅83mm，左右の段の間隔8mm
 - ③ 規定ページ数
論文： 6ページ以内
資料： 4ページ以内
※ただし、論文集編集委員会が必要と認めた場合は2ページを限度とし超過を認めことがある。
また別途、追加料金がかかります。
- (4) 原稿（論文集ウェブサイト上にある「論文集原稿作成見本」を必ずご参照下さい。）
 - ① 主題
原稿の内容を具体的かつ的確に表したものとする。会社名・商品名・社内用語の明記，商業的な内容の記述はご遠慮下さい。
 - a. 主題の右上に，受理日・講演発表日と著者の所属機関を示す「*」（アスタリスク）を付与する。
例）『 ×××* 』
 - b. 続報の場合は，主題の末尾に（第○報）と記載する。
⇒ 和文主題 16ポイント，明朝体
⇒ 英文主題 11ポイント，Times New Roman，Upper and Lower Case（前置詞，接続詞を除く名詞，形容詞などの最初の文字は大文字，他は小文字）で記載する。
 - ② 副主題
副主題はなるべく使用しない。補足説明のために付けるもので，やむを得ず付与する場合は，副主題の前後には「-」（ダッシュ）を記載する。
⇒ 和文副主題 9ポイント，明朝体
⇒ 英文副主題 9ポイント，Times New Roman，Upper and Lower Caseで記載する。
 - ③ 著者名
 - a. 主著者を筆頭とし，姓・名を略さない。ローマ字表記は名・姓の順とする。
 - b. 著者が複数の場合は，当該研究に寄与した人を必要最小限で記載する。
 - c. 地位・身分・称号は省略する。
 - d. 著者名の最後に片括弧書きで，脚注の所属機関等を示す番号を記載する。
例）自動車 太郎¹⁾ George Washington²⁾
⇒ 和文 9ポイント，明朝体
⇒ 英文 9ポイント，Times New Roman（ボールド体）
 - ④ 英文要旨
内容の要点を説明する100語以内の英文とする。

- a. 内容そのものの要点を書き研究の背景・意義など周辺事項は書かない。
 b. 表題も要旨の一種であるから、要旨中に表題の繰り返しは避ける。
 ⇒ 英文 9ポイント, Times New Roman
- ⑤ キーワード (英文)
- a. 全体の内容が推測できるよう「自動車技術会基準キーワード」の第1, 第2及び第3カテゴリよりキーワードを選定する。「キーワードの付与選定要領」を参照。
 第1カテゴリからのキーワードの選定は必須とし, 第2及び第3カテゴリからも極力該当するキーワードを付与する。
 b. 自由キーワードは, 著者が表題及び英文要旨・本文から内容に関する適切な語を自由に設定できる。
 c. キーワードの前に『KEY WRDS』と記載し, **基準キーワードは太く**, 自由キーワードは細く表記し, 両者を区別する。なお, 両者の区切りに“/ (スラッシュ)”は使用しない。また, 各キーワード間には「, 」を入れる。全体で5~10語程度とする。
 ⇒ 英文 9ポイント, Times New Roman, Upper and Lower Caseで記載する。
 (基準キーワード部分はボールド体)
- ⑥ 分類コード
 「自動車技術会基準キーワード」の分類の中から一つだけ選び, キーワードの最後に付与する。
 ⇒ 9ポイント, Times New Roman (()付き)
- ⑦ 本文
 研究の目的, 内容, 結論を論理的な構成の下に明確な表現で書く。会社名・商品名・社内用語の明記, 商業的な内容の記述はご遠慮下さい。
 a. 文章の区切りには読点「, 」(カンマ), 句点「. 」(ピリオド)を用いる。
 b. 本文の章, 節, 項の見出しには, 番号を付与する。番号はアラビア数字と句点「. 」の組合せによって表し, 原則として3段階(章. 節. 項)までとする。
 ⇒ 和文 9ポイント, 明朝体
 ⇒ 英文 9ポイント, Times New Roman
- ⑧ 図(写真を含む)及び表
- a. 図表の表題及び図表中の用語は内容を的確に表す英文とする。
 b. 図の場合は図の下に, 表の場合は表の上に図表の番号・タイトル(キャプション)を記載する。
 c. 原則として幅1段以内に表記する。図表が幅1段に収まらない場合は, 左右2段にまたがってもよい。実験装置や重要な結果を示す図は大きめに作成する。図表の横に空白部ができて, その空白部にはなるべく本文は記載しない。
 ⇒ 図表タイトル: 英文 9ポイント, Times New Roman
 ⇒ 図表中文字: 英文 7ポイント以上(本文文字以下の大きさが望ましい。)
- ⑨ 数式
- a. 数式は(段組の)幅1段に書き, 左右2段にまたがらないようにする。
 b. 数式に通し番号を付けるときは, 右端に()を付けてその中に記載する。文中で引用する場合には式(1), 式(2)のように書載する。
 c. 数式及び物理量を表す文字はイタリック(斜体)を使用し, 単位を表す文字はローマン(立体)を使用する。
- ⑩ 数字
 数量, 序数を表す数字はアラビア数字を使用し, 漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する。
 例: アラビア数字の場合: 10m, 図1, 表1, 第1章
 漢数字の場合: 三角形, 数百例, 三条ねじ
 例: 可 一つの, 二, 三の例, 一例をあげれば,
 不可 一つの, 2, 3の例, 1例をあげれば
- ⑪ 単位・量記号・数学記号・化学記号・製図記号
- a. 国際単位系(SI)を使用する。重要な数値には従来単位を併記してもよい。
 b. 量記号はJIS Z 8202(量記号及び単位記号), 数学記号はJIS Z 8201(数学記号), 化学記号は万国化学記号, 製図記号はJIS B 0001(機械製図)による。
- ⑫ 受理日・講演発表日・著者情報

- a. 1 ページ目の左段下部分(脚注)に, 「*」(アスタリスク)を付与し, 受理日を記載する。
(掲載決定後に本会より指示)
- b. 講演発表日(西暦で記載・講演会などで発表していない場合は記載不要), 発表講演名, 著者の所属機関名, 所属機関先所在地(郵便番号, 番地等を省略しない)を記載する。
- c. 当該研究の行われた機関名を記載する。研究を行った後に著者の所属機関に変更があった場合は, 投稿時の機関名を記載する。
- d. 同一所属先の著者が複数いる場合はまとめて記載する。
例) *20XX年XX月XX日受理。20XX年00月00日自動車技術会春季学術講演会において発表。
1)・2) (株)自動車技術会(102-0076 東京都千代田区五番町10-2) E-mailアドレスの記載は任意。
⇒ 和文 9 ポイント, 明朝体

⑬ 参考文献

本文の最後にまとめ, 文献を引用する場合には, 該当個所の右肩に「⁽¹⁾」のように, 一連の番号を付けて表示する。文献の記載方法は『SIST 02-2007 (具体例はp. 14~「5. 資料種類別の記述例」参照)』 (<http://sist-jst.jp/pdf/SIST02-2007.pdf>) のとおりとする。

⇒ 和文 9 ポイント, 明朝体
英文 9 ポイント, Times New Roman

- a. 論文集・雑誌等を参考にする場合
原著者名: 表題, 雑誌名, 巻, 号, 初めのページ終りのページ(発行年)
参考例) 自動車太郎: 熱工学の先端領域と展望, 自動車技術, Vol. 50, No. 10, p. 100-108 (1999)
George W. Bush: Template for Proceedings Part I, Rules and Guidelines for JSAE Presentations, First Issue, p. 100-104 (2004)
- b. 単行書 1 冊を参考にする場合
原著者名: 図書名, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ。
参考例) 吹抜敬彦: 画像のデジタル信号処理, 東京, 日刊工業新聞社, 1981, 292p.
- c. 単行書の一部を参考にする場合
原著者名: 参考にする章・節等の表題, 図書名, 出版地, 出版者, 出版年, 参考にする個所の初めのページ終りのページ
参考例) 都築正和ほか: 高分子医用材料に対し臨床的に要求される物性機能性, 医用高分子材料, 東京, 学会出版センター, 1981, p. 24-29

⑭ その他の注意事項

- a. 年号は本年, 昨年などとせず, 西暦で具体的に記載する。
- b. 外国語の固有名詞は片仮名書きとし, () を付して原語を添えることが望ましい。ただし, 一般に周知のものは片仮名書きのみとする。
- c. 外国語を片仮名書きするときに「 」や() は用いない。複合語は一つの単語として書き, 空白や「・」(中黒)を用いない。例) クランクシャフト(crankshaft)
- d. 略語を使用する場合は, 普通名詞, 固有名詞にかかわらず, 原語で記載する。また, 一般に周知でない略語を使用する場合は, 最初に使用した個所で原語を() で付記する。この場合の字体は正体とする。
- e. 用語は, 文部科学省制定の学術用語及びJIS, JASO規定の用語規格による。学術用語以外の用語についても旧文部省制定のあるものはそれにより, 制定されていないものは, 適正と思われる慣用語で記載し, 原語を() で付記する。
- f. 小数点は, 中央から下に表示し, 桁数の多い数は, 3 桁ごとに「,」(コンマ)で区切る。
- g. 本文中の脚注は, 原則として使わない。

附 則

1. この執筆要領は, 3. 自動車技術会論文集投稿規定(2012年3月6日改正)に従って定めたものである。
2. この執筆要領は, 2012年3月6日から施行する。

電界による火花点火機関の燃焼制御に関する基礎研究 (第2報)

② *

予稿原稿利用の場合は
アンダーライン削除

麹町 太郎¹⁾

自動車 次郎^⑤

車 操縦朗²⁾

A Fundamental Study of Combustion Control of a Spark Ignition Engine with Electric Fields (Second Report)

11pt.

Taro Kohjimachi

Jiro Jidohsha

Kuruma Sojuro

11pt. 18mm

11pt. 18mm

The purpose of this work is to study the feasibility of flame propagation control of mixtures in a closed vessel by applying electric fields. Hydrogen-air, methane-air and propane-air mixture were used. D.C. and A.C. electric fields were applied. For both types of electric fields, the results showed that the application of electric fields remarkably shortened the burning period of each mixture, especially in lean or rich condition. Under these mixture conditions, the following two patterns were showed, 1) large increase of initial flame- kernel growth, and 2) large increase of flame-surfaces by changing into wrinkle-flames.

第1 カテゴリー (必須)

第2 カテゴリー

第3 カテゴリー

自由キーワード

1行あける

KEY WORDS: Heat engine, Spark ignition Engine, Combustion analysis, Flame, Electric fields (A1)

分類コード ④

1文字あける

1. ま え が き

炭化水素燃料の予混合あるいは拡散火炎に直流電界を印加すると、火炎は陰極方向に傾くことが古くから知られている。

※原稿作成時に間違えやすい事項

①～⑦はこのサンプルでご確認ください。

① 受理日は未記入。

② アスタリスク(タイトルと受理日の2ヶ所)

③ 講演発表した場合は記入

④ キーワードの最後に分類コードを付与

⑤ 同一勤務先は、同一番号で括る

⑥ 参考文献の正確に記入してください。

⑦ 本文中は「図〇」「表〇」にすべて修正してください。キャプションの「fig.〇」はそのままです。

内容積 90cm³ のジュラルミン製の円筒容器で、容器両側面には高速シュリーレン写真撮影用のガラス窓、周囲壁には圧力変換器、吸排気用コックが取り付けられる。電界印加用の電極は図に示す容器側面の2枚のガラス窓から容器中心に黄銅製(直径1mm)の電極を挿入して一極とし、他極は燃焼容器本体とした。このような電極配置は同心円筒型と言われるもので、容器中心で電界強度が最も大きく、半径が増すに従い、強い力で電界の影響により中性分子種の流れ、あるいはその濃度を変化させていることを示唆する。この知見は炭化水素燃料の予混合あるいは拡散火炎に直流電界を印加すると、火炎は陰極方向に傾くことが古くから知られている^{①)}。

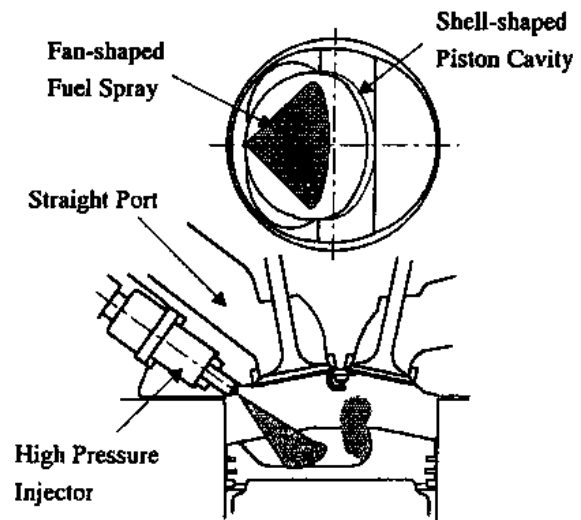


Fig. 1 Fuel spray and piston cavity configuration at stratified charge operation

⑦

2. 実験装置および方法

実験には静止混合気用と流動混合気用の2種類の燃焼容器を用いた。図1に示す前者の容器は、内直径60mm、厚み32mm、

② *2018年10月①日受理。20**年**月**日 自動車技術会

●季学術講演会において発表。

⑤ 1) 東京大学(113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1)

2) (一社)自動車技術会(102-0076 東京都千代田区五番町 10-2)

⑥参考文献

本文の最後にまとめ、文献を引用する場合には、該当個所の右肩に「(1)」のように、一連の番号を付けて示して下さい

a. 論文集・雑誌等を参考にする場合

原著者名：表題，雑誌名，巻，号，初めのページー終りのページ（発行年），文献番号

例) 自動車太郎：熱工学の先端領域術，自動車技術，vol.60, No.10, p.100-108 (1999)

五番町次郎：ドライバ評価手法，自動車技術会学術講演会予稿集(2014), 20145678

Michael J. Fox: Vehicle Dynamics System, SAE Technical Paper (2014),

2014-01-0000, doi:10.4271/2014-01-0000

b. 単行書1冊を参考にする場合

原著者名：図書名，出版地，出版者，出版年，総ページ

例) 吹抜敬彦：画像のデジタル信号処理，東京，日刊工業新聞社，1981, 292p.

c. 単行書の一部を参考にする場合

原著者名：参考にする章・節等の表題，図書名，出版地，出版者，出版年，参考にする個所の初めの

ページー終りのページ

例) 都築正和ほか：高分子医用材料に対し臨床的に要求される物性機能性，医用高分子材料，東京，学会出版センター，1981, p.24-29

d. ウェブサイトから参考にする場合

著者名(団体名)：ウェブページの題名，ウェブサイトの名称，ウェブサイト URL※（入手日付）

例) 中央教育審議会：教育振興基本計画について－「教育立国」の実現に向けて－（答申），文部科学省，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/08042205.htm，(参照 2014.08.13)

予稿原稿からの投稿の場合(同時投稿)、省略や不十分な記載があります。論文投稿の場合、改めて査読が行われますので、誌名、発行年、(巻)、(号)、該当頁は、必ず調べて正確に記載してください。ウェブサイトを参考にした場合は、例に倣い、参照日を必ず記載してください。

キーワード付与選定要領

キーワードは基準キーワード（自動車技術会基準キーワード）と自由キーワードの2種類です。

(1) 基準キーワード

全体の内容が推測できるよう「自動車技術会基準キーワード」の第1、第2及び第3カテゴリより選定して下さい。

第1キーワードの選定は必須とし、第2及び第3カテゴリからも極力該当するキーワードを付与して下さい。

(2) 自由キーワード

自由キーワードは、著者が表題及び本文から自由に設定して下さい。

① 具体的な意味のある語句で、できるだけ狭義な語句を選定して下さい。

× Critical, Speed → ○Critical Speed

× Life → ○Tool Life, ○ Fatigue Life

② 名詞形を使用して下さい。

× Studied Experimentally → ○Experimental Study

③ 省略形は、（海外も含め）その専門分野で広く通用しているものに限り、

（著者が作った新語は原則として使用しないで下さい。）

× A T C → ○Automatic Tool Change

→ ○Automatic Train Control

④ 複合語・複合句は慣用されているものに限り、

× Fatigue Strength at Elevated Temperature

→ ○Fatigue Strength, Elevated Temperature

⑤ 合金名、化合物名、元素名、核種名などの記号は、フルスペリングで示して下さい。

× C r M o S t e e l → ○Chromium Molybdenum Steel

× A l 2 O 3 → ○Aluminum Oxide

× C u → ○Copper

⑥ 一群の同義語・類似語がある場合には、簡潔なもの、頻度の高いものを選択して下さい。

⑦ 取捨に迷う場合には、加えて下さい。

自動車技術会基準キーワード
Automotive Technology: Standardized Keywords

2010年5月発行
Issued: May 2010
2013年10月改訂
Revise: October 2013

(*) …… 英略語は末尾にフルスペルを表記
(*): Items marked with an asterisk are spelled out in the definition.

分類 Category Code	目的・分野 Purpose/field	目的の対象 (もの、ハードおよびソフト)	Objects/hardware/software	手法・内容および技術要素	Means/details/component technologies
	第1カテゴリー Category 1	第2カテゴリー	Category 2	第3カテゴリー	Category 3
<p style="text-align: center;">(A1)</p>	①熱機関 heat engine	圧縮着火機関 火花点火機関 予混合圧縮着火 新型機関 ロータリ機関 スターリング機関 ガスタービン/蒸気タービン エンジン部品・要素 ターボチャージャ/VGターボ スーパーチャージャ 可変動弁機構 エンジン補機類 ターボコンパウンド 後処理システム 三元触媒 deNOx触媒/SCR脱硝/NOx 還元触媒 (*) 微粒子フィルタ 燃料/代替燃料 ガソリン/軽油/灯油/重油 エタノール/BDF (*) LPガス/天然ガス/水素 DME/FT合成油 (*) 潤滑油/エンジンオイル	compression ignition engine spark ignition engine homogeneous charge compression ignition new combustion model/new combustion model engine rotary engine/rotary combustion engine Stirling engine gas turbine/steam turbine engine component or element turbocharger/variable geometry turbo supercharger variable valve train engine accessory turbo compound post treatment system three-way catalyst de-NOx catalyst/selective catalytic reduction NOx removal/NOx reduction catalyst particulate filter fuel/alternative fuel gasoline/light oil (gas oil/diesel oil) /heavy oil ethanol/bio-diesel fuel liquefied petroleum gas/natural gas/hydrogen dimethyl ether/Fischer-Tropsch synthetic oil lubricating oil/engine oil	計測/診断/評価 数値計算 設計/制御 理論/モデリング 性能/燃費/効率 燃焼解析 排出ガス/有害排出物 燃料噴射/燃料噴霧 吸排気 過給 混合気形成/ガス流動 燃料改善/燃料改質 添加剤 潤滑/トライボロジー 振動/騒音 冷却	measurement/diagnosis/evaluation numerical calculation design/control theory/modeling performance/fuel economy/efficiency combustion analysis emissions gas/harmful emissions fuel injection/fuel spray intake and exhaust supercharging mixture formation/gas flow fuel improvement/fuel reforming additive lubrication/tribology vibration/noise cooling
<p style="text-align: center;">(A2)</p>	②動力伝達系 power transmission	発進システム 変速機 デファレンシャル/終減速機 MT AT CVT (*) AMT/DCT (*) 新型トランスミッション 動力分配システム AWDシステム (*) ハイブリッドシステム 駆動軸/ジョイント クラッチシステム 歯車/ギアシステム ドライブトレイン ベルトドライブ/トラクションド ライブ/チェーンドライブ 制御システム 油圧システム 同期機構 軸受 潤滑油/トランスミッションオイ	start control system transmission differential/final reduction gear manual transmission automatic transmission continuously variable transmission automated manual transmission/dual clutch new type transmission transfer all-wheel drive system hybrid system drive axle/joint clutch system gear/gear system drivetrain belt drive/traction drive/chain drive control system hydraulic equipment synchromesh bearing lubricating oil/transmission oil	加工 材料 強度 疲労 機構	machining material strength fatigue mechanism
<p style="text-align: center;">(A3)</p>	③EV・HVシステム (*) EV and HV systems	モーター モーター駆動システム インバータ/コンバータ パワーコントロールユニット 電池技術 リチウムイオン電池/ニッケ ル水素電池/鉛電池 SOC (*) 充電/放電 車載充電システム	motor motor drive system inverter/converter power control unit battery technology lithium ion battery/nickel-metal hydride battery (nickel hydrogen battery)/lead-acid battery state of charge (SOC) charge/discharge onboard charging system	モーター特性 電気動力変換 エネルギー回生 システム技術 充電インフラ 動力分割 絶縁 標準化 法規	motor characteristics electric power conversion energy regeneration system technology filling infrastructure power split insulation standardization regulation

(A3)		蓄電システム 電動補機/空調 補機システム プラグインハイブリッド 燃料電池 スタックセル 水素タンク 水素製造/改質 エネルギー充填/水素充填/インフラ エネルギー制御システム ブレーキ制御/回生協調ブレーキ	power storage system electrical accessories/air conditioning accessories plug-in hybrid fuel cell stack cell hydrogen tank hydrogen production/hydrogen reforming energy replenishment/hydrogen filling/infrastructure energy control system brake control/regenerative-friction brake coordination	電気安全(感電防止) EMC (*) 普及政策 エネルギーバランス エネルギーマネジメント 冷却/熱・温度マネージメント	electrical safety (electric shock prevention) electromagnetic compatibility policy of popularization energy balance energy management cooling/heat and temperature management
(B1)	④車両運動 vehicle dynamics	電子スタビリティ制御 サスペンションシステム 電子制御サスペンション ブレーキシステム ブレーキバイワイヤ/ABS (*) ステアリングシステム ステアバイワイヤ/パワーステアリング タイヤ/ホイール シャシ/コンポーネント 車間距離自動維持運転システム 車線維持支援システム 横滑り防止装置 二輪車/大型車両/特殊車両/航空機	electronic stability control suspension system electronically controlled brake system brake-by-wire/antilock brake system (ABS) steering system steer-by-wire/power steering tire/wheel chassis/component adaptive cruise control system lane-keeping assistance system electronic stability control motorcycle/heavy duty vehicle/special vehicle/aircraft	運動制御 車両力学 評価技術 ドライバモデル 操縦安定性 力学モデル 道路環境認識 運転意図認識	motion control vehicle dynamics evaluation technology driver model driving stability dynamic model road environment recognition driver intention recognition
(B2)	⑤車両開発 vehicle development	プラットフォーム CAD/CAM/CAE (*) パーソナルモビリティ ホワイトボデー バンパ/ボデー外板 インストパネル シート/照明 デザイン HILS	platform computer-aided design (CAD)/computer aided manufacturing/computer aided engineering personal mobility body shell/white body/body in white bumper/body model instrument panel seat/lighting design hardware in the loop simulation	性能計画 エクステリア/インテリア カラー 車体構造/車体設計 構造部材解析 車両計画 軽量化 設計最適化/ロバスト設計 設計シミュレーション/設計ツール/設計モデリング 短期試作/仮想進行 車両用途 モータスポーツ 信頼性 負荷シミュレーション	performance plan exterior/interior color body structure/body design structural member analysis vehicle plan weight reduction design optimization/robust design design simulation/design tool/design modeling rapid prototyping/virtual planning vehicle application motor sports reliability load simulation
(B3)	⑥振動・騒音・乗り心地 vibration, noise, and ride comfort	パワートレイン/車体/エンジン 懸架系 吸排気システム/駆動系 サスペンションシステム ブレーキ/タイヤ 車体構造/車体材料 防音材 補機・デバイス騒音 アイドル振動騒音/加速時騒音 こもり音/振動 静粛性 ドラミング(低周波ロードノイズ) ロードノイズ/パターンノイズ パワートレイン揺動(始動/発進/変速) うなり音(パワートレイン/駆動系)	power train/body (vehicle body)/engine mounting system intake and exhaust system/drive line (drivetrain) suspension system (suspension) brake/tire body structure/body material acoustic material accessory and device noise idling vibration/idling noise/acceleration noise booming noise/vibration quietness drumming noise (low frequency road noise) road noise/pattern noise powertrain oscillation (powertrain start/vehicle start/shift) whine/growl/beat noise [powertrain/drive line (drivetrain)]	CAE解析/予測/最適化 (*) 有限要素法/境界要素法 評価技術/計測技術/音源探索技術 マルチボディダイナミクス 統計的エネルギー解析法 フルビークル解析 実験解析技術 最適化技術 音質評価/乗り心地評価 デバイス技術/制御技術 モード解析/伝達経路解析/流体騒音解析	CAE simulation/forecast/optimization finite element method (FEM)/boundary element method (BEM) evaluation technology/measurement technology/sound source search technology multi-body dynamics statistical energy analysis full-vehicle simulation test and analysis technology optimization technique sound quality evaluation/ride comfort evaluation device technology/control technology modal analysis/transfer path analysis/fluid induced noise analysis

		ギア音 乗り心地 ハーシュネス シミー 走行車体振動 風切り音 ブレーキ鳴き/ジャダー 車外騒音/騒音規制	gear noise ride comfort harshness shimmy body vibration while driving wind noise brake noise/judder exterior noise/noise regulation		
(C1)	⑦安全 safety	衝突安全/火災安全/予防安全/統合安全 安全教育 素材可燃性テスト 抑制システム 救命救急/乗員保護/歩行者・2輪乗員保護/交通弱者保護 事故回避/衝突予知 衝突試験 後方衝突/側方衝突/前方衝突 防火 プリクラッシュ コンパチビリティ ドライビングシミュレータ エアバッグ/シートベルト 人体モデル/ダミー ドライブレコーダ/EDR 車体構造 シート/ヘッドレストレイント 高齢者保護/こども保護 CRS (*) 妊婦乗員保護 歩行者検知/保護 自動ブレーキ 被害軽減ブレーキ/警報 知能化自動車 ACC (*) 道路環境 交差点カメラ 傷害データベース 臨界安全システム シートベルトリマインダ 事故通報システム (ACN) ドクターヘリ/ドクターカー 免許制度 傷害基準 インパクト ヘルメット	passive safety (collision safety/crash safety)/fire safety/active safety/combined active and passive safety/integration control/integrated control safety education material flammability test suppression system first aid/occupant protection/pedestrian and bicycle and motorcycle rider protection/protection for vulnerable road users accident avoidance/collision prediction crash test rear end collision/side impact/frontal collision fire protection pre-crash compatibility driving simulator air bag/seat belt anthropomorphic dummy/crash test dummy drive recorder/event data recorder body structure seat/head restraint protection of older people/child protection child restraint system expectant mother protection pedestrian detection/protection automatic brake damage mitigation brake/warning intelligent vehicle adaptive cruise control road environment intersection camera injury database critical safety system seat belt reminder automatic crash notification/automatic collision notification doctor helicopter/doctor car licensing system injury criteria impactor helmet	道路環境認識 画像処理/情報処理 知能化/コンピュータ応用 乗員検知/乗員の安全 被害軽減 衝撃吸収・緩和 事故解析/事故統計解析 事故調査・分析 ヒヤリハット解析 救命率/初療開始 傷害予測 傷害メカニズム 事故再現/事故復元 安全人体モデル 車両転覆 センサ技術 高齢者耐性/高齢者運転特性 受傷部位/加害部位 重傷度 (AIS) 車両運動制御/エアバッグ制御 車線維持制御 ナビゲーション 車車間・路車間通信 運転支援/ドライバ支援 ISS (*) マクロデータ/マイクロデータ リスクカーブ 加害性 デルタV 回避行動 試験/評価 第三者評価 法規 CAE (*)	road environment recognition image processing/information processing intelligent/computer application occupant detection/occupant damage mitigation energy-absorbance and impact attenuation accident analysis/statistical accident analysis accident investigation and analysis near-miss analysis survival rate/start of initial injury prediction injury mechanism accident reconstruction/accident re-creation anthropomorphic dummy rollover sensor technology injury tolerance of older people/characteristics of older drivers injured area/impacting area abbreviated injury scale vehicle dynamics control/airbag control lane-keeping control navigation system vehicle-to-vehicle and infrastructure-to-vehicle communication driving support/driver support injury severity score macro data/micro data risk curve risk delta-v/change in velocity evasive action test/evaluation third-party evaluation regulation computer aided engineering
	⑧人間工学 human engineering	高齢者 人体傷害 バイオメカニクス 生体計測/運転心理 ドライバ状態 認知反応時間 居眠り/飲酒 タスク負荷	elderly person [people] human body injury biomechanics bioinstrumentation/ driving psychology driver condition cognitive reaction time drowsiness/alcohol drinking task load/driver burden	高齢者対応 実験倫理/技術倫理 ストレス/主観/パフォーマンス 評価 ドライバセンシング/ドライバモニタリング ドライバモデル/ライダーモデル ドライバ状態モニタリング ドライバ特性/ドライバ行動/ドライバ疲労/ドライバ注意 運転特性	elderly person [people] support experiment ethic/engineering ethic stress/subjective view/performance evaluation driver sensing /driver monitoring driver model/rider model driver condition monitoring driver characteristics/driver behavior/driver fatigue/driver attention driving characteristics

(C2)		<p>心拍測定 リスク補償</p> <p>過信/不信</p> <p>ヒューマンインタフェース</p> <p>車酔い/香り/覚醒 疲労/負担 ディストラクション ワークロード リスク認知</p> <p>ヒューマンエラー 感性/視覚/視認性 HMI (*) 警報システム 情報提供システム</p> <p>意図確定 運転能力</p> <p>ドライブレコーダ</p> <p>質問紙/インタビュー 運転行動 ユーザビリティ 温熱環境 ドライビングポジション メンタルモデル 顔表情</p>	<p>cardiotachometry risk compensation</p> <p>overconfidence/disaffection</p> <p>human interface</p> <p>car sickness/aroma/awakening fatigue/workload distraction workload risk recognition</p> <p>human error sensitivity/vision/visibility human machine interface warning system information systems</p> <p>intent determination driving ability</p> <p>drive recorder</p> <p>questionnaire/interview driving act/driver behavior usability thermal environment driving position mental model facial expression</p>	<p>ドライビングシミュレータ 視界/視認性/操作性/制御性/ 乗降性/快適性</p> <p>聴覚/力覚/触覚</p> <p>認知/判断</p> <p>操作 運転姿勢 個人差 精神負担/身体負担 脳・神経系/筋・骨格系</p> <p>生体計測/生体力学 運転支援 警報 生理計測 自律神経/中枢/内分泌</p> <p>視覚系/嗅覚系 形態・動態特性/感性・知覚特 性</p> <p>操作量/作業成績</p> <p>行動観察 精神・肉体疲労 HMI (*)</p>	<p>driving simulator field of vision/visibility/operability/control lablity/ ease of egress and ingress/comfort sense of hearing/sense of force/haptic sense</p> <p>recognition/judgment</p> <p>operation driving posture individuals difference/variation mental workload/physical cerebral nerve system/musculoskeletal system bioinstrumentation/biomechanics driving support/driver support alarm/warning physiological measurement automatic nervous system/central nervous system/endocrine visual system/olfactory system morphological and dynamic characteristics/perceptual and sensory characteristics operation amount/ operational performance behavior observation mental and physical fatigue human machine interface</p>
(D1)	<p>⑨熱・流体 heat・fluid</p>	<p>車体/エンジン/吸排気系/部品 要素 空力性能/空力騒音</p> <p>ラジエータ/オイルクーラ 油冷システム/空冷システム</p> <p>エアコンディショナ 冷媒 空気質/臭い</p>	<p>body/vehicle body/engine/intake and exhaust system/part element aerodynamic performance/aerodynamic noise radiator/oil cooler oil cooling system/air cooling system air conditioner refrigerant air quality/odor</p>	<p>CFD (*) 風洞試験 アルゴリズム/モデリング 車室内環境 エンジン冷却 空調/快適性 温度制御/環境制御 熱害</p>	<p>computational fluid dynamics wind tunnel test algorithm/modeling interior environment engine cooling air conditioning/comfort temperature control/environmental control heat damage</p>
(D2)	<p>⑩環境・エネルギー・資源 environment・energy・ resources</p>	<p>リサイクル リユース レアメタル/レアアース ISO14000 太陽光/風力 LCA (*) 大気環境/水質環境/土壌環境 排出ガス 燃費/熱効率 新エネルギー 再生可能エネルギー/リニュー アブルエネルギー 燃料/代替燃料 有害大気汚染物質 温暖化ガス VOC (*)</p>	<p>recycling reuse rare metal/rare earth ISO14000 sunlight/wind power life cycle assessment air quality/water quality/soil environment emissions/emission gas fuel economy/thermal efficiency new energy recyclable energy/renewable energy fuel/alternative fuel hazardous air pollutant heat-trapping gas/greenhouse gas volatile organic compound</p>	<p>環境重視型生産 環境指向型生産設計/リサイ クル設計 メンテナンス 基準 国際環境政策/政策分析 材料リサイクル ライフサイクル管理 設計/生産 高耐用技術 規制/政策/標識 健康影響 評価モード 国際基準調和 製造/使用/廃棄段階 エネルギー製造 気候変動</p>	<p>environmentally conscious production environment-oriented production design/recycle design maintenance standard international environmental policy/policy analysis material recycling life cycle management design/production long service life technology regulation/policy/marketing health effects evaluation mode global standard harmony manufacturing/use/disposal stage energy manufacturing climate change</p>
	<p>⑪材料 materials</p>	<p>鉄鋼材料 軟鋼板/高張力鋼板/表面処 理鋼板 ステンレス鋼 特殊鋼 鋳鉄 焼結材料/粉末合金</p>	<p>iron and steel materials low carbon steel sheet/mild steel sheet/high-strength steel sheet/surface treated steel sheet stainless steel special steel cast iron sintering material/powder alloy</p>	<p>試験/評価 モデリング 負荷シミュレーション 信頼性/ロバスト設計 防錆</p>	<p>test/evaluation modeling load simulation reliability/robust design rust prevention</p>

(D3)		非鉄材料 アルミニウム合金/マグネシウム合金/チタン合金 複合材料 高分子材料 エラストマ ポリマー複合材 SMC (*) プラスチックリサイクリング インストパネル バンパ/車体/外装 内装/シート 接着剤 塗料 エンジンコンポーネント シール/ガスケット 窓ガラス 構造用セラミクス/エレクトロセラミクス 二次電池材料/モータ用材料 電磁鋼板 電解質 永久磁石 触媒 グリース	non-ferrous material aluminum alloy/magnesium alloy/titanium alloy composite material polymer material elastomer polymer composite material surface mount chip or sheet molding compound plastic recycling instrument panel bumper/body/vehicle body/exterior interior/seat adhesive paint engine component seal/gasket window glass structural ceramics/electroceramics secondary battery material (rechargeable battery material)/material for motor magnetic steel sheet electrolyte permanent magnet catalyst grease	軽量化 強度/剛性/耐磨耗 疲労 耐食/電食 添加 熱処理/焼き入れ 表面処理/めっき 鋳造/鍛造 接合/結合/溶接 プレス技術 プロセス 精錬 加工性/リサイクル性 衝撃性/透明性 耐熱/耐油/耐燃料/耐水/耐光 平滑性 絶縁性能 ナノテクノロジー 破壊/酸化/劣化/耐熱性 磁気特性 フリクション	weight reduction/mass reduction strength/stiffness/rigidity/wear resistance fatigue anticorrosion/stray current corrosion/electrolytic corrosion addition heat treatment/quenching surface treatment/plating casting/forging joining/coupling/welding press technology/stamping technology process smelting workability/recyclability impact resistance/transparence heat resistance/oil resistance/ fuel resistance/water resistance/light resistance/light fastness smoothness insulation performance nanotechnology fracture/oxidation/deterioration/degradation/heat resistance magnetic characteristics friction
	(D4)	⑫生産・製造 production・manufacture 素形材 成形加工 付加加工 チームワーク設計 量産試作 鋳造/鍛造/組立/塗装/艤装 生産計画/製造計画/生産管理/製造管理 品質管理/供給系管理/日程管理 金型 熱処理/表面処理 設備/保守/メンテナンス 調達/購買 一貫生産 PLM/BOM/PDM/MES (*)	formed and fabricated materials forming process additional machining teamwork design quantity production prototyping casting/forging/assembly/painting/rig/trim production plan/manufacturing plan/production management/manufacturing control quality control/supply control/schedule control/schedule management die/mold heat treatment/surface treatment equipment/maintenance/maintenance procurement/purchase continuous production product lifecycle management/bill of materials/product data management/manufacturing execution system	企画/意匠/サイマル 材料/コスト プレス/樹脂(プラスチック) 機械加工/高エネルギー密度加工 接合/溶接/肉盛り CAT/評価/品質 (*) 検査/測定 設計/試作 モジュール トータルコスト	planning/design/simulation material/cost press/resin (plastics) machining/high energy density machining joining/welding/weld overlay computer-aided testing /evaluation/quality inspection/measurement design/prototyping module total cost
	⑬エレクトロニクス及び制御 electronics and control エンジン制御/トランスミッション制御/シャシー制御 衝突安全制御/予防安全制御/知能化安全制御 統合制御/車体系制御/バイワイヤ制御/EV・HEV制御 (*) 電子デバイス/パワーデバイス 車載マイコン/車載LSI (*) ECU/PCU (*) ミリ波レーダ/レーザレーダ/UWB (*) 半導体カメラ/赤外カメラ 表示デバイス/操作デバイス/警報・情報提供デバイス 車庫入れ支援システム LEDライト (*)	engine control/transmission control/chassis control passive safety control/active safety control/intelligent safety control integration control/vehicle body control/by-wire control/electric vehicle and hybrid electric vehicle control electronic device/power device microprocessor/large scale integrated circuit electronic control unit/ millimeter wave radar/laser radar/ultra wide band radar semiconductor camera/infrared camera device/operation device/warning and information device parking assist system light emitting diode light	試験/計測/診断 信頼性/シミュレーション 制御システム/ソフト データ転送・蓄積 ハードウェア・ソフトウェア標準化 テスト情報管理 電子物性 電気回路/電子回路 車両センサ/アクチュエータ 画像処理	test/measurement/diagnosis reliability/simulation control system/software data transfer and storage hardware and software standardization information management electronic properties electric circuit/electronic circuit vehicle sensor/actuator image processing	

(E1)		フィジカルセンサ/ケミカルセンサ MEMS (*) ドライバ状態検知制御システム/セキュリティ制御システム 制御シミュレーション/HILS (*) エコカーエレクトロニクス HMI表示/HMI操作/HMI情報提供システム (*) 制御ナビゲーション 画像認識システム/音声認識システム 電動アクチュエータ EMC (EMI/EMS) (*) 車載多重通信システム 灯火系 EDR (*) OBD (*) ワイヤハーネス/電力系ワイヤハーネス ソフトウェアプラットフォーム ロボティクス 知的制御システム/自律走行システム 電力システム	physical sensor/chemical sensor micro electro mechanical systems driver state detection control system/security control system control simulation/hardware in the loop simulation environmentally friendly car electronics human machine interface display/human machine interface operation/human machine interface information provision system control navigation image recognition system/speech recognition system electrical actuator electromagnetic compatibility (electromagnetic interference/electromagnetic susceptibility) on-board multiplex communication system light event data recorder on-board diagnostics wiring harness/wire harness/electrical system wire harness software platform robotics control system/autonomous land system/autonomous driving electrical system	オンロードテスト/耐久テスト/部品レベルテスト 新計測法 知能化 システム工学 機能安全 電気機器 パッケージ/アセンブリ/実装技術	on-road test/duration test/durability test/parts level test new measuring technique intelligent system engineering functional safety electrical equipment package/assembly/packaging technology
(E2)	⑭情報・通信及び制御 information, communication, and control	CAN (*) AUTOSAR ブルートゥース V2G (*) PLC (*) 無線LAN ドライブレコーダ 車両ナビゲーション/コミュニケーションシステム FlexRay 車載高速通信 UWB通信 インタネット通信 スマートグリッド クラウドシステム リモートダイアグ LIN (*) インタナビ交通情報 HDラジオ (*) PND (*) ネットワークトレーサビリティ WiMax 電子すかし技術 セキュア通信プロトコル	controller area network AUTOSAR Bluetooth vehicle to grid power line communication wireless local area network drive recorder vehicle navigation system/communication system FlexRay high-speed communication ultra wide band communication Internet communication smart grid cloud system remote diagnostics local interconnect network traffic information HD Radio portable navigation device/personal navigation device network traceability Worldwide Interoperability for Microwave Access digital watermark technology secure communication protocol	車車間通信 情報システム オーディオ ナビゲーション 環境認識 通信システム 室内ネットワーク/車両ネットワーク IT/ITS (*) メディア情報 エコドライブ 音声認識 光通信 WEBコンテンツ 分散処理システム マルチコアCPU オペレーションシステム	inter-vehicle communication/vehicle-to-vehicle communication information system audio navigation system environment recognition communication system interior network/vehicle network information technology/intelligent transport system media information eco-drive/environmentally friendly driving speech recognition optical communication web contents distributed processing system multi-core CPU operating system
(F1)	⑮社会システム social system	省エネ運転 電気社会システム	energy-saving driving electricity-based society systems	交通環境 交通工学 交通流 安全教育 道路	traffic environment traffic engineering traffic stream safety education road
	⑯共通基盤 common infrastructure	オンボード計測 耐久テスト テスト情報管理 部品レベルテスト CAD/CAM/CAE (*)	onboard measurement durability test information management parts level test computer-aided design/computer aided manufacturing/computer aided engineering	模型実験 シミュレーション/モデリング 設計 保守/整備/保全 サービス	experiment with a model simulation/modeling design maintenance/maintenance/protection service

(F2)				短期試作 仮想進行 修理 診断装置 保証 モニタリング データ転送・蓄積 規格/規制 法規/認証 品質保証 政策提案 知財 技術者教育/育成 自動車技術史	rapid prototyping virtual planning repair diagnostic device warranty monitoring data transfer and storage standard/regulation regulation/certification quality assurance policy proposal intellectual property engineering education/training history of automotive technology
(F3)	①その他のモビリティ other means of mobility	航空機 アビオニクス 海洋/船舶 航空宇宙 鉄道 パーソナルモビリティ	airplane avionics marine/shipping aerospace rail personal mobility		

3. 自動車技術会論文投稿規定

1972年4月1日制定
1980年7月3日改正
1987年2月10日改正
1988年2月16日改正
1992年5月19日改正
1994年5月26日改正
1996年9月24日改正
1998年10月27日改正
2002年10月31日改正
2010年9月6日改正
2012年3月6日改正
2018年12月3日改正
2022年12月7日改正
2025年3月7日改正

1. 自動車技術会（以下「本会」という）への論文の投稿は、本規定の定めるところによる。
2. 自動車技術会論文集への投稿を希望する著者は、会員資格を問わず（原著（以下「原稿」という）を本会に投稿することができる。
3. 投稿された原稿が論文として認められた場合は自動車技術会論文集に掲載する。
4. 論文集には論文の他、資料を投稿できる。
 4. 1 論文は次の条件を満たしたものとす。
 - (1) 自動車工学に関する学術の進歩に寄与する報告を主体とするものであること（工学的有用性）、あるいは自動車工業に直結した技術に関する報告を主体とするものであること（工業的有用性）
 - (2) 内容に独創的な知見があること（独創性）
 - (3) 内容に明白な誤りがないこと（信頼性）
 - (4) 記述及び内容がまとまったものであること（完成度）
 4. 2 資料とは、独創性を欠いても、工学上または工業上資料としての価値の高いものとする。
5. 原稿は、次の条件に適合するものでなければならない。
 5. 1 原稿は、日本語または英語で、自動車技術会論文執筆要領により執筆されたものであること。
 5. 2 一般に公表されている他の刊行物に未投稿のものであること。この場合、「公表」とは販売又は配布をいい、「刊行物」とは和文・欧文にかかわらず、すべての出版物とする。但し、以下のものは未投稿とみなす。
 - (1) 本会が主催または共催する集会事業において発行された前刷集等に掲載されたもの。
 - (2) 著者の所属する機関において発行する刊行物に、速報的抄録を投稿したもの（なお著者は原稿投稿の際、参考資料としてその刊行物又は該当部分を添付する）。

5. 3 資料も、論文に準ずるものとする。
5. 4 係争中、並びにこれに直接関与する問題等を含まない論文であること。
5. 5 人を対象とする研究に関する原稿においては、その研究は、自動車技術会「人を対象とする研究倫理ガイドライン」を遵守して実施されたものでなければならない。原稿中には、実験等について倫理審査委員会等による審査承認、実験参加者へのインフォームドコンセントの手続きを得ていることが記述されていること。
6. 原稿の受理日は、本会に到着した日とする。内容の照会、短縮などを依頼された原稿については、本会からの依頼日より2ヵ月以内に著者の回答と原稿が返送されないときは、最初の受理日は無効とする。なお、論文として投稿されたものであっても、論文集編集委員会の判定により、資料として取り扱うこととなった原稿については、論文として投稿された受理日が有効となる。
7. 論文としての掲載可否は校閲委員の意見に基づき、また、論文の区分は著者の申告と校閲委員の意見に基づき、論文集編集委員会が行う。掲載不相当と判定された原稿は、理由を付して著者に返却する。著者は判定に対して意見のある場合には、書面をもって申し出ることができる。
8. 掲載可とされた論文についても、編集委員会から改善の依頼をすることがあるので、著者はその指示に従うものとする。その間、論文の掲載は、保留される。
9. 投稿された原稿に関する本会からの連絡等は、原稿が和文、英文にかかわらず、原則として日本語で行う。
10. 掲載された論文等の内容に関する責任は著者が負う。
11. 論文等の1編の規定ページ数は、次のとおりとする。
論文：8ページ以内、資料：4ページ以内
ただし、論文集編集委員会が必要と認めた場合は2ページを限度とし超過を認めことがある。
12. 著者は、投稿した原稿の掲載が決定した場合、掲載料として1件につき55,000円（税込）を支払うものとする。ただし、著者全員が本会個人会員以外の場合は、1件につき77,000円（税込）を支払うものとする。
13. 著作権
自動車技術会著作権規則により「自動車技術会論文集」に掲載された著作物の著作権は、著作者に帰属する。この定めにかかわらず、著作者は著作権について、本会が国内外において無償で独占的に使用する権利を許諾するものとする。

付 則

1. この規定は編集会議組織業務処理基準、第11条(1)に従って定めたものである。
2. この規定は、2002年11月1日から施行する。
3. この規定は、2010年9月6日から施行する。
4. この規定は、2012年4月1日から施行する。
5. この規定の5.5については、経過措置として2014年3月までは倫理審査委員会などによる審査承認がなくても原稿を受け付けることとする。ただしその場合でもインフォームドコンセントを受領していることの記述は必須とする。
6. この規定は、2018年12月4日から施行する。
7. この規定は、2022年12月7日から施行する。
8. この規定は、2025年3月8日から施行する。

公益社団法人自動車技術会 著作権規則

(目的)

第1条 この規則は、公益社団法人自動車技術会（以下、「本会」という。）が発行する出版物に掲載される著作物に関する著作権の取り扱いに関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 前項の出版物には、本会ホームページ及び電子媒体を含む。

(適用範囲)

第2条 この規則は、本会が発行人である出版物に関して定めるものとし、他法人又は行政機関等との共同発行による出版物若しくは受託事業等の成果物等として作成する出版物に関しては、当該他法人又は行政機関等と協議の上決定する。

(定義)

第3条 この規則において、用いる用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 著作物 著作権法第2条第1項第1号に規定するものであって、以下のいずれかに該当するものをいう。
 - イ. 本会発行の出版物に掲載される研究報告、論文、記事等
 - ロ. 本会ウェブサイトに掲載される研究報告、論文、記事等
 - ハ. その他上記に類するものであって本会が指定するもの
- (2) 著作者 著作物を創作した者であって、著作権法第2条第1項第2号に定めるものをいう。
- (3) 著作財産権 著作物の著作財産権をいい、著作権法第21条（複製権）、第22条（上演権及び演奏権）、第22条の2（上映権）、第23条（公衆送信権等）、第26条の2（譲渡権）、第26条の3（貸与権）、第27条（翻訳権、翻案権等）及び第28条（二次的著作物の利用に関する原著作者の権利）に定めるすべての権利を含む。
- (4) 著作者人格権 著作物に関する著作者人格権をいい、著作権法第18条（公表権）、第19条（氏名表示権）及び第20条（同一性保持権）に定めるすべての権利をいう。
- (5) 著作権 第3号の著作財産権及び第4号の著作者人格権をいう。

(著作権の帰属)

第4条 著作財産権は、個別の出版物につき本会が特に定める場合を除き、著作者に帰属する。

2 著作物に関連して、本会が創作した二次的著作物及び編集著作物の著作権は本会に帰属する。

(著作権の使用許諾)

第5条 著作者は、著作財産権について、本会が国内外において無償で独占的に使用する権利を許諾する。

2 前項に定める本会の権利には、有償無償を問わず、本会がサブライセンスを行う権利を含む。

3 本会は、本会が著作物を原著物として二次的著作物を作成する場合には、事前に著作者に通知する。

(著作者による著作物の使用)

第6条 著作者は、当該著作者が創作した著作物を使用する場合（第三者に使用を許諾する場合を含む。）、書面により、本会の許諾を得るものとする。

2 本会は、当該著作物の使用が、学会の目的又は活動の趣旨に反しない限り、前項に定める著作者からの申請を許諾する。

3 第1項の定めにかかわらず、著作者は、次の各号に定める場合には、本会の許諾を得ることなく著作物を使用できるものとする。

- (1) 著作者個人又は著作者が所属する法人のウェブサイトにおいて、自ら創作した著作物を

使用する場合

- (2) 著作物に掲載されている図、写真、グラフ、表並びにこれらに類する物
- (3) 著作権法第 30 条から第 50 条（著作権の制限）において許容された使用
- (4) 個別の出版物につき本会が特に定める場合

（第三者への著作権の使用許諾）

第 7 条 著作物の著作財産権を使用する第三者（以下、「使用者」という。）は、個別の出版物につき本会が特に定める場合を除き、本会の許諾を得なければならない。

2 本会は、使用者が著作物を原著物として二次的著作物を作成する場合には、著作者にその旨を通知する。

3 本会の許諾を得た場合、使用者は本会に対して処理基準に定める使用料金を支払わなければならない。

（著作者への通知）

第 8 条 前条及び第 5 条の著作者への通知を、登録又は記録した当該著作者の住所若しくは当該著作者が会員の場合は会員の登録先住所にあてて発信した場合は、その通知が通常到達すべきであった時に、到達したものとみなす。

2 著作物が共同著作物である場合は、第 10 条第 1 項第 3 号による同意を取得した者に通知する。

3 本条における通知は、事前に著作者から当会に対して当該二次的著作物の種類について合意する旨の通知（電子的通信を含む。）があった場合には、これに代えることができる。

4 著作物の著作者が不明の場合若しくは共同著作物で同意を取得した者が不明の場合は、編集担当理事に報告した時に、通知したものとみなす。

（著作者人格権の不行使）

第 9 条 著作者は、本会及び使用者に対し、著作者人格権を行使しない。

2 前項の定めは、本会及び使用者が、著作物を原著物として二次的著作物を作成した場合においても適用される。

なお、本会は、著作者の名誉を損なうことがないように十分留意する。

（著作者による保証等）

第 10 条 著作者は、著作物が次の全ての号に該当することを保証しなければならない。

(1) 第三者の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願又は登録に関する権利等の知的財産権その他一切の権利を侵害していないこと

(2) 著作物が過去に一切公表されたことがないこと

(3) 著作物が共同著作物である場合には、本会への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著作者全員の同意を取得していること

(4) 著作物において第三者の著作物を引用する場合には、出典を明記すること

（著作者による処分禁止）

第 11 条 著作者は、本会の書面による事前の許諾なくして著作財産権の譲渡、移転、担保権の設定及びその他の処分を行ってはならない。

（紛争解決に関する協力）

第 12 条 著作物に関する第三者からの権利侵害又は著作物による第三者に対する権利侵害等、著作物に関して紛争が発生した場合又は発生する恐れがある場合、著作者及び本会は相互に協力してこれに対処する。

（協議）

第 13 条 この規則に定めなき事項及びこの規則の各条項の解釈に疑義が生じた場合、著作者及び本会は、信義誠実の原則に従って協議し、これを解決するものとする。

（処理基準）

第 14 条 この規則の運営に関し必要な細則については、編集会議において処理基準を定め、これによるものとする。

(この規則施行以前の著作物)

第 15 条 この規則以前に創作された著作物についても各号の規定を適用する。

(改廃)

第 16 条 この規則の改廃は、編集会議の審議を経て、理事会の議決によらなければならない。

附 則

- 1 この規則は、2011 年 4 月 26 日から施行する。(第 1 回理事会議決 2011 年 4 月 26 日)
- 2 社団法人自動車技術会著作権規則(1991 年 10 月 2 日制定)は、廃止する。

附 則

- 1 この規則は、2020 年 10 月 16 日から施行する。(第 2 回理事会議決 2020 年 10 月 16 日)
- 2 公益社団法人自動車技術会著作権規則(2011 年 4 月 26 日制定)は、廃止する。